令和5年度 第3回文化財専門審議会

議 事 録（抄録）

日 時 令和5年（2023年）12月22日（金）10時00分から12時00分まで

場 所 横須賀市役所第4委員会室

参加者 文化財専門審議会委員 〈敬称略〉

委員長 平田大二 : 地質 神奈川県立生命の星・地球博物館館長

委員 岩橋春樹 : 絵画 元総持寺宝物殿館長

勝山輝男 : 植物 元神奈川県立生命の星・地球博物館主任学芸員

劔持輝久 : 考古・郷土史 赤星直忠博士文化財資料館館長

瀬谷貴之 : 彫刻 神奈川県立金沢文庫主任学芸員

水沼淑子 : 建造物 関東学院大学名誉教授

矢島國雄 : 考古 明治大学名誉教授

安室知 : 民俗 神奈川大学大学院歴史民俗資料学科研究科
日本常民文化研究所教授

（欠席）正垣孝晴 : 地盤工学・土木史 元防衛大学校教授

（欠席）永井晋 : 古文書 関東学院大学国際文化学部客員教授

事務局：横須賀市教育委員会教育長 新倉聡

横須賀市教育委員会教育総務部長 古谷久乃

横須賀市教育委員会生涯学習課長 柿原美奈、同主査 川本真由美、同担当者青木微笑

内容 〈敬称略〉

1. 開会

委員長挨拶・教育委員会挨拶

2. 議事 指定重要文化財等の諮問について

（1）指定重要文化財等の指定について

－ 教育長より1件を諮問 －

1. 板著色 火伏せ不動明王図額（絵馬）

事務局より、指定候補の詳細調査報告書の概要を説明。

岩橋委員から名称について次の補足説明があった。

- ・文化財名称として、寺からの信仰の反映であり絵馬という名称を付けたいという意向をふまえ、「火伏せ不動明王図額」、そして絵馬という文言を付け加えることで寺の了解を得た。

以下、質疑応答

水沼：これは、一般公開されるのか。特別な時に公開することはあるのか？

岩橋：ご住職と話した時にお十夜の時に掲げて見ていただくかという話はあった。

水沼：貴重なものであるため機会があるとよいと思った。

岩橋：新指定文化財は5年おきに公開する機会を設けたほうがよい。指定して終わりではない。先年、横須賀美術館で浄楽寺の仏像（重文）の展示実績がある。5年に1回ぐらいは、新指定文化財展の開催を検討してはどうか。

安室：横浜市の場合は、横浜市歴史博物館で市指定展を毎年開催している。毎年、学芸員の負担も大きいと思うので、3年～5年に一回など周期を決めて市民に公開していく場を検討してほしい。美術館だけでなく市自然・人文博物館もその役割を担うものと考えている。

剣持：多くの人に知ってもらい、見てもらう機会は文化財に対して理解者を増やしていくとことにつながり重要である。

委員長：今後、今回の指定候補について修理や保管上の留意点などはあるのか。

岩橋：剥落止めは必要になると思う。また、板に隙間があり、一度解体して締め直しも必要になると思う。公開というのは重要なことであると同時に難しい点もある。劣化に繋がる場合もある。

委員長：新指定文化財として市民に周知するには、広報誌などの紙媒体やホームページ、SNSにも可能性があるのではないかと。文化庁もデジタル化ということを盛んに言っている。一方、新指定文化財としての実物の公開も保存に配慮して検討してほしい。

事務局：修理・保存環境について、審議員の皆様からご意見を頂いた。指定後は修理や保存の環境を整備すること、公開や指定になったときのデジタル化、市のホームページ・SNSを通じて広く市民に周知をはかること、これらが事務局の課題である。また、一般公開の方法は検討させて頂きたい。

瀬谷：重要な絵馬である。明治に入ってあの河鍋暁斎が描いた、というのが明確に分かるものであり、近代美術として重要である。このような近代の美術品について、横須賀にゆかりがある代表的なものは今後指定していくことを検討してもよいのではないかと。その先駆けになる作品だと思う。

委員長：ご審議ありがとうございました。ご審議頂いたことをまとめて、次回の審議会で答申に進むことにしたい。

一同同意、審議終了。

3. 報告 円通寺跡・深谷やぐら群の調査状況

令和5年7月と11月に実施した円通寺跡・深谷やぐら群の発掘調査の概要報告を事務局より行った。

剣持：今後、調査はどのように進めていくのか、更に調査面積を広げて、寺跡を全面出してみるのか。また、やぐらの部分の保存の問題をどのように考えているのか。

事務局：7月の調査にて中世の地業面と考えられる礫敷きの範囲が確認され、伝承どおり「中世の何らかの遺構があった」ということが判明した。三浦半島のエリアにおいて中世の三浦一族に関連する確かな遺跡として貴重である。現在2回目の調査を実施しており、調査区を拡張して、この地業面の広がりを確認しているところである。また、出来れば柱穴を見つけたいが、現在のところ柱穴らしきものは見つかっていない。

次の段階としては、柱穴なり礎石といった建物の規模が推測できる遺構を検出したい。

やぐら群の部分についても、調査を継続していきたい。中世の景観が復元できうる遺跡という認識である。

今後の整備については、公園部局と調整しながら整備を進めていくことを想定する。

矢島：寺の遺構とやぐらとがセット関係で残る好例であり、また三浦氏の伝承と照合できる貴重な例である。崖面に堆積する土砂を除去すると彫像がでてくるのではないか。また崖面に多くの木が生え、岩盤が柔らかいので、木の処理が必要ではなかろうかと危惧する。

事務局：木の伐採は庁内でも話が出ているので、関係部局と調整しながら進めていく。

質疑応答終了後、審議会を終了した。